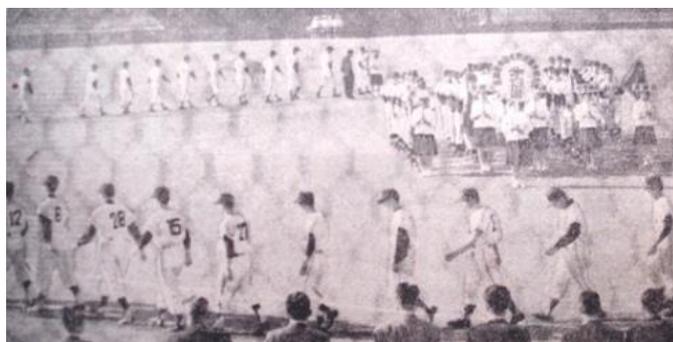


構想新たな8チームによる選手権の覇者は日本冷熱がV3

第13回準硬式野球選手権大会	会期：昭和38年11月9日(土)～10日(日)
	会場：長崎市宮大橋球場

日本冷熱工業(推薦) 11	5	1	佐世保市役所(佐世保)	
西肥バス(佐世保) 1	5	5	澱粉クラブ(大村東彼)	
高島鋳業所(西彼) 4	2	1	神戸発動機(諫早北高)	
長崎市役所(長崎) 2	0	2	9	長崎機械工具(長崎)

第13回となった準硬式野球大会は、構想を新たにし、参加チームは前年度優勝の日本冷熱工業をはじめ県下5地区から選ばれた文字通り強豪の8チーム。開会式は午前9時から県警音楽隊の吹奏する行進曲にのって選手入場から始まった。国旗、大会旗、長崎新聞社旗、審判団に続いて、紫紺の大優勝旗をなびかせて日本冷熱工業、次いで前年度準優勝の長崎機械工具、西肥バス、高島鋳業所、長崎市役所、佐世保市役所、澱粉クラブ、神戸発動機の順で入場行進を終えた。開会式を終え選手が退場した後、グラウンドでは県警音楽隊がドリルを披露して大会の花を添え第1試合は始まった。



(昭和38年11月10日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

日冷工、13安打11得点

【一回戦】 (7回コールド)	振球犠盗併残失	1時間38分
西肥バス	000 001 0	1 3 1 0 3 1 6 5
日本冷熱工業	110 072 X	11 1 7 1 5 1 9 3

【評】日冷工は打棒の冴えにツキを加えて大勝した。初回、毎熊の四球を足場に酒田の遊内野安打と川口の三遊間安打で先制すると、二回にも2四球に左失などで1点を追加した。

西肥バスの先発深町は球は速かったが制球に苦しみ、五回にも1安打2四球を与えて降板、だが代わった西町もスピードが無く下位打者3人につるべ打ちされた。勢いに乗る日冷工はラッキーなグラウンドヒットなども加え、この回に打者11人で大量7点を挙げて勝利を決定付けた。

日冷工の先発・的野は球威こそ無かったがベテランらしい巧いチェンジアップを見せ、六回まで散發の4安打に抑える好投だった。シャットアウトを免れた西肥の1点は六回に波井が併殺崩れの失策で二進し、山下の二塁内野安打と井崎の右中間タイムリーによるものだった。

西肥バスは第6回大会に初出場し8年間で5回出場。初の初戦敗退して9勝4敗。第8回大会で優勝し、翌年は準優勝している。

【西肥】打安点	【日冷工】打安点
⑥南里 4 0 0	⑦梅井 4 1 1
⑦飯田 3 1 0	7浜崎 0 0 0
④波井 3 0 0	⑧毎熊 4 1 2
⑨山下 3 1 0	②酒田 3 1 0
③井崎 3 1 1	⑨川口 3 3 3
⑧1西町 2 0 0	③川内 3 1 0
⑤中尾 3 1 0	④浜辺 4 2 1
①深町 2 0 0	⑤宮原 3 2 1
8田中 1 0 0	⑥島 3 2 3
②清水 3 0 0	①的野 2 0 0
27 4 1	H西村 1 0 0
	1星川 0 0 0
	30 13 11

長崎自滅 高島に幸運な2点

【一回戦】 第2試合	振球犠盗併残失	1時間46分
長崎市役所	000 001 010	2 5 1 0 2 0 10 2
高島鋳業所	000 210 01X	4 2 3 0 9 0 9 2

【長崎】打安点
⑧松尾 5 1 0
④富永 5 1 0
⑤藤井 5 1 0
②9梅原 4 3 0
③緒方 4 1 1
⑥岩崎強 4 1 0
⑨2白石 4 1 1
⑦岩崎憲 3 0 0
①宇戸 4 3 0
38 12 2

【評】高島鋳業所が四回に挙げた2点はラッキーなものだった。この回二死二三塁のとき高比良の打球は一塁背後の平凡な飛球だったが二塁手が横から出て捕球しようと弾き拾いものの2点を挙げた。長崎市役所にとっては全く手痛いエラー。五回には松尾と毛利の連打で一死二三塁のピンチを招き森のスライズ(安打)で1点を加えられ前半で早くも3点の負担を背負った。長崎はこの失点にあせり気味。六回に尾崎を攻めて藤井、梅原の安打に緒方の左中間二塁打と続いたが走塁ミスにより1点に止まり、八回にも3安打で1点を返し反撃に移ったが、その裏に痛恨の押し出し点を与えて息の根を止められた。長崎にとって惜まれるのは二三回に無死走者が出ながら牽制球死や二盗死したりで逸した。12安打を放ちながらチグハグな攻撃で2点しか挙げられず、守っては拙守の繰り返しで、県庁から補強した宇戸の10安打されながらも要所を締める好投に報いることができなかった。

【高島】打安点
⑧18毛利 5 2 0
⑦森 4 1 1
⑥長崎 3 1 0
②西山 4 0 0
⑨渡辺 3 0 0
H樫谷 1 1 0
9芥川 0 0 0
①81尾崎 4 3 0
⑤高比良 3 0 0
③野崎 4 1 0
④松尾 3 1 1
34 10 2

澱粉クラブが打ち勝つ

【一回戦】第3試合 振球 犠盗 併残失 1時間38分

澱粉クラブ	300 010 100	5	0	3	2	1	2	7	4
佐世保市役所	001 000 000	1	3	2	1	1	1	13	0

【二】荒木
草野

【評】両軍で24安打の打撃戦だったがスコアは5-1の大差がついた。澱粉クは初回、田中が四球のあと荒木以下の3連打で3点、五回には荒木と野中の長短打に山下の適時打、七回にも二塁打の草野を野中の左適時打で還すなど、チャンスには必ずタイムリーが出た。

しかし佐世保市役所は澱粉の先発中野に9安打、六回一死から救援の野中にも4安打を浴びせながら、ここ一発が出ず僅かに1得点のみ。もっとも惜しまれるのは六回、大石と菅原の連打で中野を降板させ、救援野中に対し菅原が初球を一塁線にバントしてオールセーフの無死満塁と攻め、反撃の糸口をつかんだ。しかし続く松永が高目の悪球に手を出して→捕→一の併殺で一瞬にして好機を潰し、田淵も三振に倒れて無得点に終わり、第1試合の西肥バスと共に佐世保勢は初戦で消えた。

【澱粉】打安点

⑦田中	3	0	0
②荒木	5	2	0
⑤④草野	5	2	2
③①野中	4	3	2
⑥山下	3	2	2
④⑤大島	4	1	0
①③中野	4	0	0
⑨川上	4	1	0
⑧森	2	0	0
34		11	5

【佐世保】打安点

⑧田淵	4	1	0
⑦堀脇	5	2	0
②佐々木	5	1	0
⑥柴山	4	2	1
①奥田	5	1	0
③大石	4	1	0
⑤菅原	4	3	0
⑨高橋	2	0	0
9山下	1	0	0
④松永	4	2	0
38		13	1

38 13 1

機械工具が逆転でコールド勝ち

【一回戦】 (7回コールド) 振球 犠盗 併残失 1時間47分

長崎機械工具	002 013 3	9	4	2	1	0	0	7	0
神戸発動機	100 000 0	1	9	0	0	2	0	2	4

【三】平、寺尾
武田

【長崎】打安点

⑧寺尾	5	2	0
⑦平	4	1	2
④武田	4	2	0
③⑧比地	4	1	0
⑥桑田	3	0	0
⑨原	4	2	2
②峯	3	1	2
①清田	3	1	1
⑧成宮	1	0	0
3森	3	1	0
34		11	7

【評】1-0とリードされた長崎機械工具は、三回に四球と敵失の一二塁に平が右中間を破る三塁打であっさり逆転し、五回は三塁打の寺尾がボークで還った。神戸発動機の中島は外角スレスレのカーブを武器に何とか機械工具の猛打線をかわそうとしていたが、やはり力不足。六、七回には高めに浮くところを力のある機械工具打線に狙い打ちされてしまった。しかしこれは中島一人の責任ではなく打たせて取るタイプの投手だけにしっかり守ってやらねばならない守備陣が乱れて傷口を大きくした。
長崎機械工具の清田投手は立ち上がりスピードはあったがノビが無く向井のタイムリーで1点の先行を許すなど良いスタートではなかったが、リードした三回以降は余裕の投球で神戸発動機に乗ずるスキを与えなかった。

【神戸】打安点

⑥吉田	3	0	0
③高内	3	1	0
⑧大山	3	0	0
⑦向井	3	2	1
②中村	3	0	0
⑨山田	3	0	0
④東	2	0	0
⑤栗崎	2	0	0
①中島	2	0	0
24		3	1

“外ライク”は残念

○…本大会の始球式の投手はもちろんのこと、捕手や打者とも知名士。学生時代、東京六大学で鳴らした鈴田長崎市助役の始球ボールは右に大きくそれでワンバウンド、しかし万能選手だったという佐々木長崎新聞社専務はこれをナイスキャッチ。打者の松浦県軟式野球連盟会長もりっぱに大振りしてストライカー。鈴田助役はとんでもない始球式になったと“外ライク?”を残念がっていた。

警官と思えぬ腕前

○…開会式終了後、大橋球場で県警音楽隊の“ドリル”が披露されたが、観衆はその見事な技にウツトリ、惜しめない拍手をいつまでも送った。口の悪いある観客は“警官か、それとも専門音楽隊か、おまわりさんをやめてドリルでメシを食った方が良いのでは…”と、かわったほめ方をしていた。

黄色ずくめの日冷工応援団

○…大会2連覇中の日本冷熱工業の熱の入れ方は大したもの。試合開始1時間前には同工業従業員およそ百人が三塁側スタンドに詰めかけ、揃いの黄色い陣笠をかぶり“必勝!日本冷熱工”の黄地のノボリと“ガンバレ”のプラカードを立て女性も黄色い声援。黄ずくめは選手のユニフォームに合わせたものとか。それよりもこの日は半ドン(土曜日)は午前中を休みにして午後会社に出て仕事をするとのことで、このりっぱな心掛け?に大会関係者も驚くばかり…。

○…今大会には雪印乳業から先着百人に牛乳を無料サービスがあった。また長瀬ゴムが試合球、平和運動具店、日産自動車からホームラン賞や打撃賞、美技賞などの数々の賞品提供があった。

大会最終日は準決勝と決勝の3試合が行われた。第1試合は七回に集中攻撃で5点を挙げた日冷工が高島鋳業所の反撃を2点に食い止めて勝ち、第2試合は第6回大会優勝の澱粉クラブと第10回大会優勝の長崎機械工具の一戦となったが、

澱粉クラブが5-2で逃げ切り、大会2連覇中の日本冷熱工業との決勝戦は日冷工が立ち上がりから有利に試合を進めて5-0で勝利し、大会初の三連覇を達成した。
(昭和38年11月11日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

高島鋳、最終回の反撃ならず

【準決勝】

振球 犠盗 併残 失 【二】 川口 2

日本冷熱工業	000 300 200	5	1	1	1	0	0	4	0
高島鋳業所	000 000 101	2	2	0	1	0	0	6	2

梅井、星川
渡部

【日冷工】 打安点

⑦ 梅井	4 1 2
7 浜崎	0 0 0
⑧ 毎熊	4 2 0
② 酒田	4 1 0
⑨ 川口	3 3 1
9 川畑	1 0 0
③ 川内	4 1 1
④ 浜辺	1 0 1
H 星川	1 1 0
4 鬼塚	0 0 0
⑤ 宮原	4 0 0
⑥ 島	4 1 0
① 西村	3 1 0
1 的野	1 0 0

34 11 5

【評】二回一死三塁の先制機を逸した日冷工は、四回に毎熊、酒田の連安打で無死一三塁のチャンスを迎えた。ここで川口の当たりそこねの遊ゴロが安打となる間に毎熊がかえり、酒田と川口のうまいベースランニングで二三塁とした後に、川内の三遊間安打と浜辺の犠飛で3点を挙げた。さらに七回には下位打者の島、西村がチャンスをつくり梅井のタイムリーに塁打で2点を加え高島鋳の命脈を断った。
高島鋳業所の尾崎はカーブで日冷工のホコ先をかわそうとしたが、切れが悪かった。打線も日冷工の先発・西村の低めにコントロールされた速球とスローカーブにすっかり沈黙。やっと七回に榎谷、渡部の長短打で1点を返した。最終回に代わった的野から一死満塁の絶好の反撃機をつかんだが、江頭の安打で二走の榎谷も本塁を突いて刺され1点だけに止まった。この場合、点差からみて三塁に自重すべきだったかも知れない。

【高島】 打安点

⑧ 毛利	4 1 0
⑥ 長崎	4 0 0
① 尾崎	4 1 0
② 西山	4 1 0
⑨ 榎谷	4 3 0
③ 渡部	3 2 1
⑦ 森	3 0 0
H 江頭	1 1 1
④ 松尾	2 0 0
4 石原	1 1 0
H 野崎	1 0 0
⑤ 高比良	3 0 0

34 10 2

澱粉クラブ、13安打で逃げ切り

【準決勝】

1時間50分

振球 犠盗 併残 失

澱粉クラブ	201 000 200	5	0	6	1	6	0	12	1
長崎機械工具	200 000 000	2	2	2	0	0	2	3	0

【二】 武田

【澱粉】 打安点

⑦ 田中	5 0 0
② 荒木	3 2 0
⑤ 草野	4 1 0
① 野中	5 3 0
⑥ 山下	5 3 3
④ 大島	3 1 1
③ 中野	3 0 1
⑨ 川上	5 1 0
⑧ 森	4 2 0

37 13 5

【評】澱粉クラブの野中は先頭を歩かせた後、3安打集中されて2点を許したが、二回からは完全に立ち直り極端なスローボール、カーブで打者の気を抜きうまくタイミングを外すピッチングに切り替えて二回以後は1安打に抑え二塁ベースを踏ませなかった。
一方の長崎機械工具はエースの清田を温存し伊藤を先発させたが単調過ぎ、澱粉クはずかさず初回に1四球3安打で2点、三回は3安打を浴びせて引き離し清田をKO。二番手の室島は球威はあったがコントロールが不十分で、七回に1安打4四球で押し出しの2点を与えて降板。三人目の寺尾がようやく締めくくった。
澱粉クラブはムラ無く打って五回を除き毎回の13安打を放ったが、機械工具は「引きつけて打つ」という軟投攻略法を忘れて、野中のペースに巻き込まれ、わずかに4安打という不甲斐なさだった。澱粉クラブを甘く見すぎたのかも知れない。

【長崎】 打安点

⑤1 寺尾	3 0 0
⑦ 橋本	0 0 0
7 平	4 1 0
⑥ 武田	4 1 1
⑧3 比地	4 0 0
② 桑田	3 1 1
⑨ 原	3 0 0
③ 森	3 0 0
8 成宮	0 0 0
① 伊藤	1 0 0
1 室島	1 0 0
5 宮崎	1 0 0
④ 平山	3 1 0

30 4 2

昭和38年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第18回全日本軟式野球大会 【51チーム】

(S38. 8. 16～: 神奈川県)

長崎 澱粉 【一】 0-2 日本鋼管川崎(開催地)

第18回山口国体(27チーム)には不出場

九州から宮崎(優勝)、福岡(4位)、熊本が出場

第7回高松宮賜杯全日本大会 9. 7～: 福島県

1部(10チーム)は九州から熊本(八代市役所)が出場

2部(10チーム)は九州から熊本機関区が出場

第14回西日本準硬式 【26チーム】 5. 23～: 長崎県

(開催地のため2チームが出場)

第一養魚クラブ 【一】 7-2 松江市役所(島根)

【二】 3-2 光洋精工(香川)

【準々】 0-9 九州産業交通(熊本)

日本冷熱工業 【一】 12-2 高知市役所(高知)

【二】 2-7 酒伊繊維工業(福井)

日本冷熱工業、三年連続優勝飾る

連投の野中をK0 澱粉クラブ 初回の逸機たたる

【決勝戦】 1時間36分 振球犠盗併残失

澱粉クラブ	000 000 000	0	4	0	0	0	2	7	2	【二】川口
日本冷熱工業	110 020 01X	5	3	2	0	1	0	8	1	浜辺

【評】5月に長崎、諫早両市で開催の第14回西日本準硬式大会に県代表として2年連続三回目の出場をした日本冷熱工業と、8月に神奈川県で開催した天皇賜杯第18回全日本の晴れ舞台を初めて踏んだ澱粉クラブは、県下郡市対抗準硬式の決勝戦で雌雄を決することになった。

試合前のジャンケンで勝って先攻を選んだ澱粉クラブは、先手を取って日冷工をペースに巻き込もうとの作戦だったのだろう。ところがそれが狂ってしまった。初回、大塚の立ち上がりやを叩いた荒木と野中の安打と捕逸で二死ながら二三塁と走者を進め日冷工をおびやかしたが、山下が遊飛に倒れて実を結ばなかった。ここで一発が出ておれば面白かったのだが…。

日冷工はその裏に四球と二盗の酒田を川口の左中間二塁打で還して先取点を挙げた。澱粉クの野中は軟投派で味方が先に点を取ってこそ、相手にあせりが生じて持ち味を發揮するものなのだが、日冷工に先取点を与えては効力は半分もない。

気分的に楽になった日冷工は二回に下位打者が打って加点。五回には酒田の安打を足掛かりに川内の三遊間安打を左翼手が後逸したり、浜辺の内野安打で決定的ともいえる2点を加え野中をK0した。野中が連投で疲れ球がいくらか高めに入ってきた点は否めないが、じっくりと見極め、手元に引きつけて打ったのが良かった。

立ち上がりは良くなかった大塚も二回からは立ち直り、外角カーブで六回までは無難なピッチング。七回から速球派の西村を繰り出してがっちり勝利を握った。

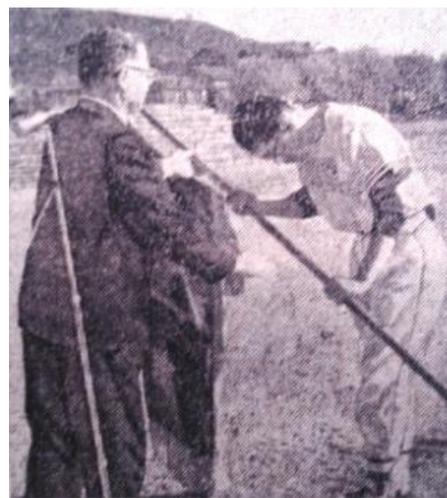
【澱粉】打安点

⑦	田中	4	0	0
②	荒木	4	1	0
⑤	草野	4	0	0
③	⑬野中	4	3	0
⑥	山下	4	0	0
④	大島	4	0	0
③	①中野	4	0	0
⑨	川上	3	1	0
⑧	森	3	1	0
		34	6	0

【日冷工】打安点

⑦	梅井	5	0	0
⑧	毎熊	4	0	0
②	酒田	3	2	0
⑨	川口	3	1	1
9	浜崎	1	0	0
③	川内	4	1	0
④	浜辺	3	3	1
⑤	宮原	4	1	0
⑥	島	4	2	0
①	大塚	2	1	1
H	星川	1	0	0
1	西村	1	1	1
		35	12	4

試合終了後に直ちに閉会式が行われ、投手プレートを中心に一塁側に優勝した日冷工、三塁側に準優勝の澱粉クラブが整列。成績発表のあと日冷工に賞状ならびに紫紺の大優勝旗、桑原長崎新聞社長杯、読売杯、賞品が、澱粉クラブにも準優勝杯や賞品が贈られた。次いで個人表彰があり、佐々木大会副会長の閉会あいさつ。国旗、大会旗、長崎新聞社旗、連盟旗の降納があり、佐藤長崎新聞社工務局長が閉会宣言。高らかに鳴り渡ったファンファーレで二日間の大会の幕を閉じた。華やかな長崎バス女性ブラスバンドの吹奏する行進曲によって優勝旗を手にダイヤモンドを一巡する日冷工ナインにスタンドの応援団や観衆から賞賛の拍手が沸き起こったが、惜しくも敗れた澱粉クラブのナインにも惜しめない拍手をおくって健闘をたたえていた。両軍ナインは長瀬ゴム提供のボールをスタンドに投げ込んでこれに応えた。



佐々木大会副会長(長崎新聞社専務)から優勝旗を受ける梅井日冷工主将

【個人表彰】

- ◇最優秀選手賞＝川口美穂(日冷工)
- ◇首位打者賞＝川口美穂(同) 9打数7安打11塁打3打点
- ◇優秀選手賞＝酒田正二(同) ◇勝利監督賞＝浜辺勇(同)
- ◇特別敢闘賞＝野中靖矩(澱粉)
- ◇敢闘賞＝山下和義(澱粉)、荒木省自(澱粉)、尾崎英(高島) 樫谷繁(高島)、清田豊彦(機械)
- ◇打撃賞＝野中靖矩(澱粉)、浜辺勇(日冷工)、島清照(同)
- ◇優秀守備賞＝宮原万里(日冷工)

